

人口	(57. 9. 1現在)
男	15, 218人
女	16, 033人
計	31, 251人
世帯数	7, 760



▲500人余が参加した社会福祉推進大会



▲パネル展をみる参加者

小さな輪から大きな輪へ 広がれボランティアの輪 社会福祉推進大会に五百人余が参加

ボランティア活動で花咲く福祉のまちづくりをテーマに勝山市で初の社会福祉推進大会(市社協主催)が八月八日(日)、教育福祉会館で開かれました。大会には福祉関係者をはじめ障害者やボランティア、一般市民など五百人余が参加しました。開会式で藤原潔・市社協会長は「ハンデイのある人もない人も、共に生活し合える地域づくりをめざそう」とあいさつし、長年、地道に福祉活動を続けてこられた七人と、二団体に表彰状を手渡しました。

このあと、障害者、ボランティアの立場から事例発表が行われました。

その中で、九頭竜ワークショップ寮生の高橋隆次さん(33)は、「施設からの訴え」と題し、「今は多くの仲間と機能回復訓練や

作業に充実した毎日を送っているが、ボランティアとの心の触れ合いが何よりもうれしい。もっと多くの人との触れ合いの場がほしい」と訴えました。

成器南小学校のJRCの児童六人は、身体障害者スポーツ大会に協力したことや、施設慰問を通じ障害者と交流を深めたこと、最近結成された手話クラブについてそれぞれ発表し、会場から盛んな拍手を受けました。

午後からは、全盲のトランペット奏者、伊藤順裕さん(27)・芳野町一丁目、の楽しいおしゃべりと演奏があり、会場はなごやかな雰囲気につつまれました。

会場には、障害者の作品やボランティア活動のパネルが展示され、障害者への理解と関心を呼びかけていました。

市社会福祉協議会長の表彰を

受けたのは次の皆さんです。

【市社協会長表彰】
 ■藤丸憲治さん(66) 本町一丁目
 多年にわたり、早朝から中央公園周辺の清掃を実施し、公園の美化に努めています。
 ■横井はづみさん(62) 北郷町松原谷
 老齢ながら奉仕の精神で、地区の神社の清掃を引き受けてがんばっています。
 ■黒田廣治さん(60) 沢町二丁目
 川や長山周辺の道路の美化に努めています。
 ■朝日兵松さん(60) 鹿谷町北西侯
 障害者の自立更生に尽くすとともに、ボランティア連絡協議会の結成に尽力しました。
 ■前川勇さん(60) 栄町五丁目
 子供会育成や老人食事サービスの運搬などにすすんで協力しています。
 ■元町二丁目婦人会(生内和子会長)

八年前にわたり、市心身障害児(者)福祉センターの七夕祭りを引き受け、手づくり料理、ゲームなど奉仕活動を行っています。

【いずみの会】
 月二回ひとり暮らし老人への食事サービスを続けています。

▲パネル展をみる参加者

【市社協会長感謝状】
 ■三屋旭さん(60) 元町三丁目
 社会福祉事業への寄付など、事業の振興と向上に大きく貢献しています。

■早川繁治さん(60) 立川二丁目
 多年にわたり、障害者に関心と理解を示し、障害者福祉施設に電子部品のリード棒さしの仕事を提供し、障害者に働く喜びを与えています。

ときには、手づくり料理を届け、ひとり暮らし老人との交流をはかっています。

【市社協会長感謝状】
 ■三屋旭さん(60) 元町三丁目
 社会福祉事業への寄付など、事業の振興と向上に大きく貢献しています。

■早川繁治さん(60) 立川二丁目
 多年にわたり、障害者に関心と理解を示し、障害者福祉施設に電子部品のリード棒さしの仕事を提供し、障害者に働く喜びを与えています。

地域社会の“心”をつなぐ
ボランティア活動

みんなが平等に
くらせる社会づく
りをすすめるため
に、わたしたちは
社会の一員として
何か身近なことで
できるはずですよ。

「相手の身にな
って、自分のし
てほしいと思うこ
とを、そのとおり人
にすすんでする」
——これがボラン
ティア活動です。
皆さんも、これに
ついて考えてみま
しょう。

心のふれあいをもとめて
手話サークル「ともしび」

勝山手話サークル「ともしび」(牧野一彦会長)が結成されて三年目。このサークルは、昭和五十年から続いている手話講習会の受講生仲間が、手話をより広めようと結成したものです。現在、会員は四十八人。このうち耳の不自由な人たちが十三人。週一回教育福祉会館に集まり手話の技術向上に努めています。さらに月一回は、障害者と

ひとり暮らし老人に
手づくり料理を
「いずみの会」
食事サービス

ひとり暮らしの老人に、手づくりの料理を味わってもらおうと、市社会福祉協議会の呼びかけに集まった人たちが、「いずみの会」を結成して、現在月二回の食事サービスを行っています。会員は三十三人。運営委員、メニュー委員のほか配達する男性も含まれています。主な材料は、社協で購入しますが、野菜は家庭でつくったものを各自が持ち寄り、市民会館の料理室でつくっています。会員の中には、栄養改善推進



▲まごころをこめて

委員さんとも何人かいて、栄養面については、特に気をつけているそうです。それに暑い時期は材料選びにも苦労があるようです。

食事は、民生委員さんを通じて、市街地の十九人のひとり暮らし老人に届けられています。ときには、出向いて話し相手になったり、いっしょに食事をしたりして交流をはかっています。

「いずみの会」では、「ひとり暮らし老人の食生活に関するアンケート調査」を行ったりして、少しでも喜んでもらえるものにはしたいと思っています。こうした食事サービスボランティアは、旧村部にも芽生え、実施している地区が増えつつあります。



▲手話技術の向上をめざして

「ともしび」には、女子中学生から六十歳すぎの男性まで、の交流を深めようとレクリエーションを行っています。

「ともしび」には、女子中学生から六十歳すぎの男性まで、

はは広くあらゆる立場の人が参加しています。こうして広まる手話活動について、長年サークルの世話をしてきた河合絹枝さん(67)昭和町二丁目「は、毎年続けている手話講習会が定着してきたことと、国際障害者年をきっかけに、一般の人が障害者福祉に目を向けてくださるようになったのではないのでしょうか。高校を卒業し、都会へ行ってからも手話の勉強を続けているといった便りをいただくと、ほんとうにうれしい。とにかく地道に長く続けてほしい。」と話しています。

息の長い活動をめざして
朗読ボランティア「ゆうあい」

目の不自由な人の「目」になつてあげようと、朗読ボランティア「ゆうあい」(笠松定子会長)が結成されたのは四年前。現在、会員八人。月二回教育福祉会館に集まり、市広報紙や市社会福祉協議会の機関紙「社協だより」などの吹き込みをしています。



録音されたテープは、市視力障害者福祉協会を通じて希望する人に届けられています。

「ゆうあい」というグループ名は、英語の「ユー・アイ(あなたの目)」と「友愛」を掛けて、名づけたそうです。

このグループの課題は、朗読

市広報のテープ吹き込みをする

技術の向上です。近く講師を招いて勉強会を開く予定をしているとのこと。

目の不自由な人たちからは、「市の行事やお知らせなど知りたいことがよくわかり感謝しています。」とお礼のことばが届き会員たちの励みになっています。

今後の抱負として笠松さんらは「目の不自由な人の意見や要望を十分に聞き、息の長い活動にしていきたい。また、テープライブラリーを設置し、希望するテープを自由に貸し出しできたら……」と語っています。

大野・勝山広域農道を推進 期成同盟会を設立

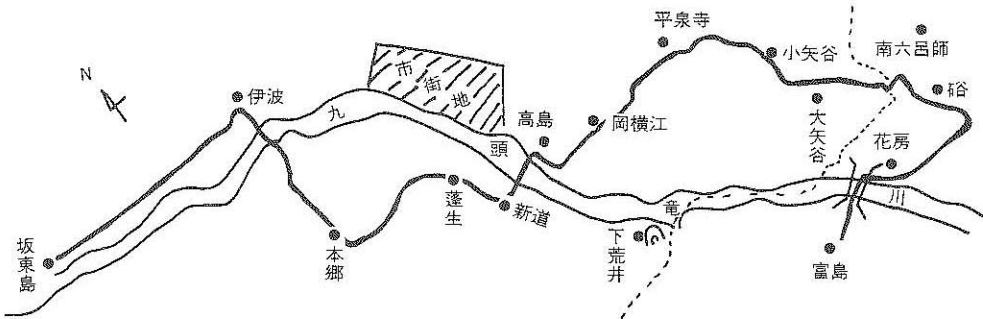
大野市の広域農道地を勝山市にも拡大し、それらを結ぶ広域農道を新設、改良して両市の農業を一体的に振興していこうと、このほど大野市とともに、大野・勝山広域農道促進期成同盟会を設立しました。

設立総会は、勝山市教育福祉会館で行われ、両市の関係者四十数人が出席しました。

規約や事業計画を承認したあと、役員選出にうつり、池田市長が会長に、副会長に川崎大野市長がそれぞれ選出されました。

勝山市としては、現在官農団地を計画していますが、事業計画は別図のとおり大野市富島から当市の北郷町坂東島を結ぶ路線で、総延長二九・五のうちの県道や市道など併用部分を除く一六・八の広域農道です。全幅員九メートル、有効幅員六メートルに拡幅改良、舗装をします。

受益面積は大野市、勝山市合わせて二千四百八十ヘクタール。路線中、九頭竜川に大野市富島地区から花房地区へと、勝山市高島地区から新道地区への二カ所を橋をかけます。高島地区から新道地区への橋は、通称「南大橋」といわれるものです。概算事業費は約四十五億円見込んでいます。



高額療養費 自己負担額引き上げ 二段階 9月から4万5000円に 来年1月から5万1000円に

高額療養費の自己負担の限度額が九月一日から引き上げられました。いままで、わたしたちが医者さんにかかったとき、医療費の自己負担分として、一人、一カ月(一つの病院、診療所に)三万九千円以上を支払った場合は、三万九千円を超えた分は全額、国民健康保険から払いもどされることになっていました。

九月一日から、この自己負担額が九月一日から引き上げられました。いままで、医療費の自己負担は、最高一カ月三万九千円であったものが、これからは四万五千円になったわけですが、低所得者(住民税非課税世帯)については三万九千円にすえ置かれます。来年一月から五万一千円に引き上げられます。

56年度国保医療費統計まとまる

ガンの医療費増える

五十六年度の国民健康保険医療費統計がまとまりました。

五十六年度の国民健康保険加入者は九千四百二十人で、支払った医療費総額は九億八千二百三十三万四千円となりました。

五十五年と比べると、加入者が五十一人増え、医療費も二千二百九十七万九千九百九十二円(二・四%)増えています。

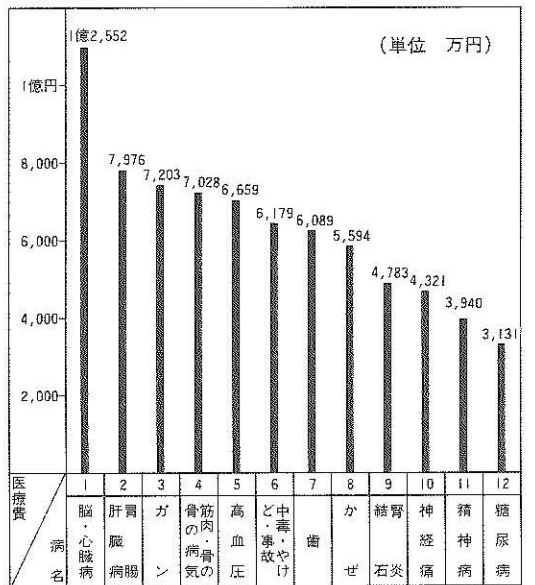
医療費の伸び率は二・三%ですが、五十五年と五十四年度を比較した場合、八・九%の伸び率となっていますから、それからみれば、いよいよ伸び率は低くなっています。

赤ちゃんからおとしよりまでの一人あたりの医療費平均は、十萬四千六百五十五円、一・八分の限度額が四萬五千円に引き上げられました。

つまり、これまで、医療費の自己負担は、最高一カ月三万九千円であったものが、これからは四万五千円になったわけですが、低所得者(住民税非課税世帯)については三万九千円にすえ置かれます。

来年一月から五万一千円に引き上げられます。

〈別表1〉昭和56年度国保加入者病気別医療費表



この統計では、いわゆる成人病といわれる脳卒中・心臓病・胃腸病・肝臓病・ガンなどが上位を占めています。

成人病の原因として悪い食生活習慣がありますが、栄養改善に積極的に取り組まなければなりません。もちろん原因は食生活だけでなく、体質遺伝および交通機関発達にもなる運動不足などもあげられます。

成人病の特徴は、自覚症状がないうちに進行すること、一度病気になるると治りにくいこと、薬による効果があまり望めないこと、などが共通しています。

したがって、自分自身で生活、運動による予防、定期的な検診によって早期発見に努めることがたいせつです。

一人あたりの病気別医療費については、別表(2)のとおりです。

この表には十四位までしかありませんが、三十二の病気中、新生児の病気など六つの病気を除いて、すべて老人に対する医療費が上回っています。

これからの日ごろの健康づくりに努めてください。

年間の医療費の病気別内訳では、五十五年と同様脳卒中や心臓病・脳・心臓の病気がトップで、一億二千五百五十二万円(一四・八%)増えています。

二位は同じく胃腸・肝臓など消化器系の病気で、七千九百七十六万円ですが、五十五年に比べても、二・四%増えています。

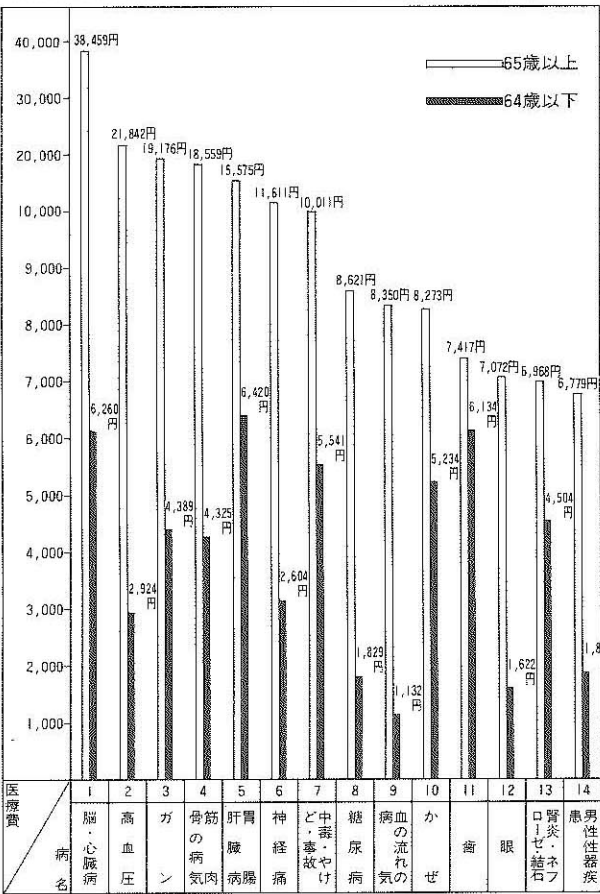
医療費の伸び率は二・三%ですが、五十五年と五十四年度を比較した場合、八・九%の伸び率となっていますから、それからみれば、いよいよ伸び率は低くなっています。

赤ちゃんからおとしよりまでの一人あたりの医療費平均は、十萬四千六百五十五円、一・八分の限度額が四萬五千円に引き上げられました。

つまり、これまで、医療費の自己負担は、最高一カ月三万九千円であったものが、これからは四万五千円になったわけですが、低所得者(住民税非課税世帯)については三万九千円にすえ置かれます。

来年一月から五万一千円に引き上げられます。

〈別表2〉昭和56年度国保加入者病気別1人当たり医療費表



医療費節約に心がけましょう

医療費が増えつづけ、国保の財政は火の車です。医療費節約をお願いします。

ふだんから体力を充実させ、少々の病気などはね返す健康なからだをつくっておきましょう。

それは、毎日の生活のなかで、十分な睡眠と休養、バランスのとれた栄養、適度の運動と鍛錬を心がけなければなりません。

＊ハシゴ受診をやめよう

どうしても納得いかないというならともかく、一つの病気で、簡単に、あつちの医者さん、こつちの医者さんと渡り歩く

ことはムダです。まず、かかっている医者さんへお話ししましょう。

＊深夜、休日、時間外受診を避けよう

深夜、休日、時間外受診は通常の医療費のほかに割増料金をとられます。

平素の注意で、こういう時間の受診はなるべく避けたいものです。

＊交通事故にあつたら届け出を

交通事故のように、第三者の行為でケガをしつたり病気になる場合、相手と示談を結ぶ前に必ず国保へ届けてください。

文化財をたずねて(2)

市指定 紅梅塚・桜塚

寛谷公園の山腹に二つの句碑がある。右が紅梅塚、左が桜塚と呼ばれている。紅梅塚には「紅梅やみぬ恋つくる玉すだれ」という松尾芭蕉の句が刻まれている。天下泰平の江戸時代には新しい文化が生まれ育ったが、ことに元禄のころ、大阪では松尾芭蕉があらわれ俳諧を大成した。芭蕉の門人各務支考が越前へきて、勝山にも蕉風俳諧が起り、家中と下町の間に二統社と呼ばれる同人会が結成されるようになった。

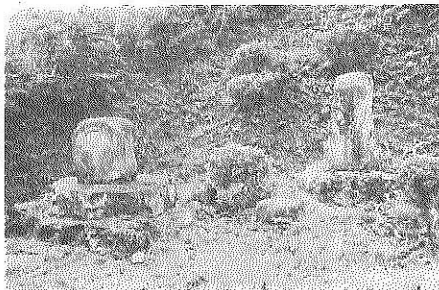
文化・文政年間には、俳諧趣味がますます流行し、平泉寺に川上社、寛谷に紅梅吟社が結成された。

紅梅吟社は、比良野掃雲坊(正照)が主宰し、俳句会を盛んに行つたので、勝山の俳句の中心でもあった。

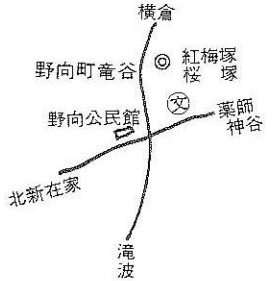
紅梅塚は安政六年三月(一八五九)掃雲坊が家伝の芭蕉筆跡を刻んで建てた。

桜塚は掃雲坊を慕う人たちが明治二十年に建立した。これには「明日ありと思えどくる桜かな」という掃雲坊の句が刻まれている。

紅梅塚と桜塚には、勝山の文化の足跡をみる事ができる。



右が紅梅塚 左が桜塚



革工芸制作に意欲的

レザークラフトの竹田谷さん

レザークラフト(革工芸)に打ち込む竹田谷龍治さん(昭)旭町三丁目)は、いま日展出品のため制作に追われています。

レザークラフトとは、牛や羊などの革を使い、それに彫刻したり、染めたりしていろいろな造形をほどこしていくものです。

サイフやカバンなどの小物から、竹田谷さんのように五十号の大作までと、個性的でユニークなものがつくれ、いま、若者の間で人気が出てきています。

竹田谷さんがレザークラフトに興味を持ったのは、二十歳のころヨーロッパ旅行したおりに、スペイン市街の広場で開かれていた「のみの市」で精巧な革細工品を目にしたときだそうです。

そして、同宿した向こうの若者たちが革を買ってきて自分で

細工をし、カバンなどをつくっているのを見て、自分でもできるのでは...と思ったそうです。

竹田谷さんはもとと油絵が好きで、趣味としてかいていますが、子どもが生まれてから部屋ではかきなくなり、油絵に代わるものとしてレザークラフトを始めました。

勝山や大野市内の手づくり展に出品したり、奥さんとの二人展を開いたりして、次第に一般の人にもレザークラフトのおもしろさが知られるようになり、いまではかなりの人がレザークラフトに取り組んでいます。

竹田谷さんは、現在皮革工芸研究竹琴会を主宰し、週三回の文化教室をはじめ、カルチャーセンターなどの講師として活躍しています。

いまのところ、活動は福井市中心で、市内の百貨店にレザークラフトのコーナーを受け持ち、訪れた人にも指導しています。

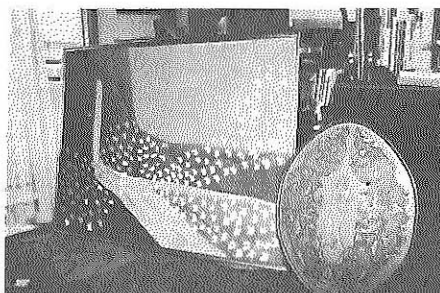
竹田谷さんは、家に帰ると、食事こそそこに日展へ出す作品にとりかかります。深夜になることもしばしばだそうです。

これまでも、日展や工芸展に数多く出品し、日展入選一回、日本革工芸展入選二回などの賞に輝いています。九月の第二回現代工芸美術家協会福井展へも「流」「連」など三点を出品しました。

目標は「これからもよい作品をつくり、みんなに認められて何べんも入選したい」と意欲的です。勝山の文化活動について感想を聞きますと、「他市と比べると、いま一つという感じがする。積極的な文化活動を...」とちよつと耳の痛いことが返ってきました。

家族は、奥さんのゆり子さんと、小学四年生の昌希くん、一年生の美由紀ちゃんの四人です。ゆり子さんも龍治さんとともにレザークラフトに取り組む、よきアシスタントとしてがんばっています。

▲作品の一部



▲制作に取り組む竹田谷さん

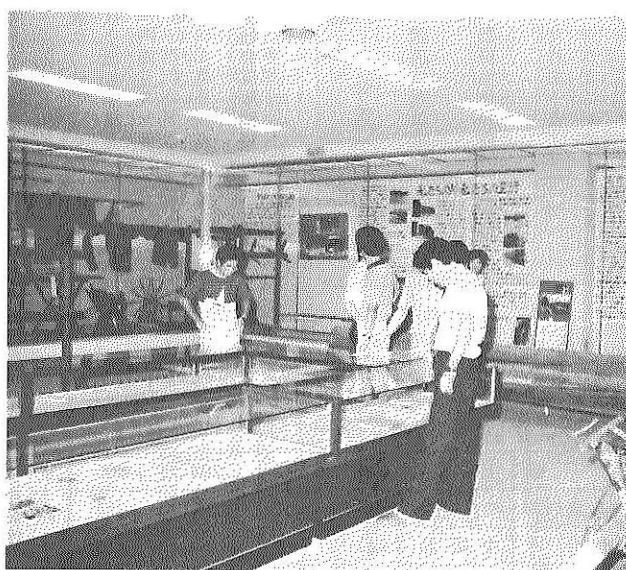
遅羽農村環境改善センター 農村生活の発展をテーマに

資料展示室

このほど完成した遅羽農村環境改善センター内の資料展示室を紹介いたします。

センターの二階、広さ百八十平方メートルの展示室には、「遅羽の農村生活の発展」をテーマに農村生活の移り変わりを一目でわかるよう民具類をはじめとして、いろいろの生活用具が展示されています。

▼縄文遺跡と出土品 ▲神奈備の三室山 ▲三室山城跡 ▼遅羽の農村生活の発展に分けられ、約四百点の資料が展示されています。



▲資料展示室内部

生活用具からムシロ編み機、モッコ編み機など、今では見られなくなった珍しいものも展示してあります。

地元遅羽地区では、このほど青年、婦人を対象に三室山を中心とした「ふるさと」の歴史の勉強会を開きました。講師は資料室の展示の準備にあたった市文化財保護委員長の河原哲郎さんで、参加した皆さんは熱心にメモをとっていました。

講義のあと、資料室の見方を学び、訪れる人に少しでもうまく説明してあげられれば...といっしょうけんめいでした。

悪質ドライバーに
にらみをきかす
—村岡の関—

このほど村岡町警見の国道一五七号線沿いに、市内で三つ目の交通安全「関所」がお目見えしました。

これは村岡町連合壮年会や婦人会が中心となって設けたもので、関所開きには、市長ら多数出席し、マスコミが、や、通行手形」をドライバーに配り、交通安全を呼びかけました。

縄文遺跡のコーナーには、市内十四の遺跡からの出土品を時期別に分類、陳列してあります。その中には、市指定文化財の尖底深鉢など貴重なものも含まれています。

農村生活の発展のコーナーでは、九頭竜川とのかかわりの中で発展してきた遅羽地区を浮き彫りにし、幾つかの漁具類が展示してあります。

中央には、ミノ、イズメなど



▲関所前で交通安全を呼びかける

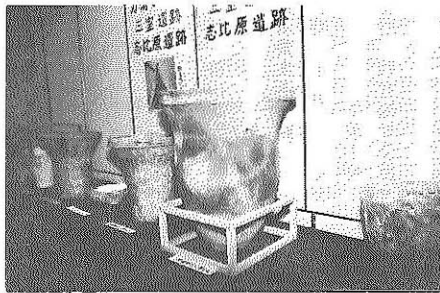
県民体育大会 競技成績

第三十四回県民体育大会は八月七日から九日の三日間、県内の各競技場で熱戦が繰り広げられました。

勝山市からは水泳競技をはじめ二十一種目に、深谷桂一団長以下選手・役員合わせて三百六十一人が出場しました。

バドミントン競技など各種目によく健闘し好成績をおさめました。

- 個人部
 - 陸上
 - 一般男子 三十歳以上千五百メートル
 - 二位 上田秋光(旭町二)
 - 四分一〇秒一大会新
 - 弓道
 - 一般女子
 - 二位 南茂喜代美(昭和町二)
 - アーチエリ
 - 一般男子
 - 三位 伊藤俊一(旭町二)
 - 一般女子
 - 一位 阿部洋子(旭町二)
 - 空手
 - 三位 清水博昭(滝波)
 - 相撲
 - 二位 大谷順一(別所)
 - 剣道
 - 一般男子 二十四歳以下
 - 一位 北川賢一(沢町二)
 - 自転車
 - 二位 市原 勝(上野)
- バスケットボール 女子



▲縄文遺跡の出土品

広域行政 施設めぐりバス

参加者募集

大野・勝山地区広域行政事務組合では、広域行政および各市・町の行政に対する認識と理解を深めていただくために、次の要領で「施設めぐり」の参加者を募集します。

実施日 十月五日(火)午前八時
三十分市役所裏出発、午後

五時二十分帰着。

コース 勝山市役所→越前大仏建立地→平泉寺公民館→六呂師高原牧場(ふる里自然公園)→九頭竜国民体育地(長野発電所(九頭竜ダム))

参加料 無料。

持ち物 水筒、雨具。

申し込み方法 (昼食は用意します)

申し込み方法

ハガキに住所、氏名、年齢、連絡先(電話番号)を書いて左記へ申し込んでください。

千二二勝山市元町二丁目ノ一
勝山市役所内

大野・勝山地区
広域行政事務組合
募集人員 五十人。

申し込み期限 九月二十五日(日)

その他 定員以上の申し込みがある場合は、抽せんで行います。

申し込み方法は、抽せんで行います。

秋の交通安全運動 ゆとりとゆずりあいて ゆつくり走ろう 9/21~30

秋は行楽シーズン。家族そろってドライブをする機会も多くなります。

自動車を運転する人は、次の点に十分注意しましょう。

《ふだんの注意》

- ▽病気や体調がくずれていると思ったら、運転しない。
- 《運転中の注意》
- ▽無理なスピードは、事故のもと。スピードの出過ぎに注意する。
- ▽長距離を運転するときは、二時間に一回の割合で休憩する。
- ▽運転中、疲れや眠気をおよぼしたら、直ちに安全な場所に車を止め、仮眠や軽い体操をする。
- ▽シートベルトは必ず着用する。

